

経済情報ピックアップ

訪日客の動向について

○訪日客数が単月で初めてコロナ前の水準を上回る

日本政府観光局 (JNTO) が11月15日に公表した「訪日外客統計」によれば、2023年10月の訪日客数は251.7万人と、新型コロナウイルス流行前の19年10月に比べ+0.8%増加しました (図1)。22年10月に入国者数の上限撤廃や個人旅行解禁など感染症に関する国の水際対策が大幅に緩和されてから1年が経過するなか、訪日客数は順調に回復し、単月で初めてコロナ前の水準を上回りました。

結果を国・地域別にみると (表1)、シンガポールをはじめとした東南アジア、米国や豪州を含む米欧豪地域などで訪日客数が回復しています。また、同局が公表している23の国・地域のうち韓国、台湾、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、豪州、米国、カナダ、メキシコ、ドイツ、イタリア、スペインといった14の国・地域からの訪日客数が10月としては過去最高を記録しました。

一方で、中国からの訪日客数は低い水準が続いています (19年10月比▲64.9%)。23年8月に中国政府は、日本への団体旅行を約3年半振りに解禁しましたが、その後の東京電力福島第1原子力発電所における処理水の海洋放出への反発などの影響が、団体旅行客の戻りの鈍さにつながっていると考えられます。

○訪日観光消費額は四半期ベースで過去最高に

訪日客数の増加に伴い、訪日客による消費も回復が鮮明になっています。観光庁によれば、23年7~9月の訪日外国人旅行消費額 (1次速報値) は1兆3,904億円と四半期ベースで過去最高を記録しました。コロナ禍で積み

上がった需要 (ペントアップ需要) の顕現に加え、円安下での割安感による購買意欲の押し上げが背景にあると考えられます。

2022年入り後の為替相場は、歴史的な高インフレを背景に利上げを実施する海外各国・地域と日本との金利差拡大や、日本の輸入依存度が高いエネルギー資源や食料価格の上昇に伴う輸入額増加を背景とした貿易赤字額の拡大などから、円安が進行しました。

訪日客による消費額は、こうした品目の輸入額に比べると規模は小さいですが、年間で5兆円近くにも上りまします。また、統計上ではサービスの輸出に分類され、モノの輸出と同様に外貨を獲得することから、為替市場では円買い要因として働きます。そのため訪日消費額の増加は、観光産業への経済効果だけでなく、経常収支の下支えにもなります。

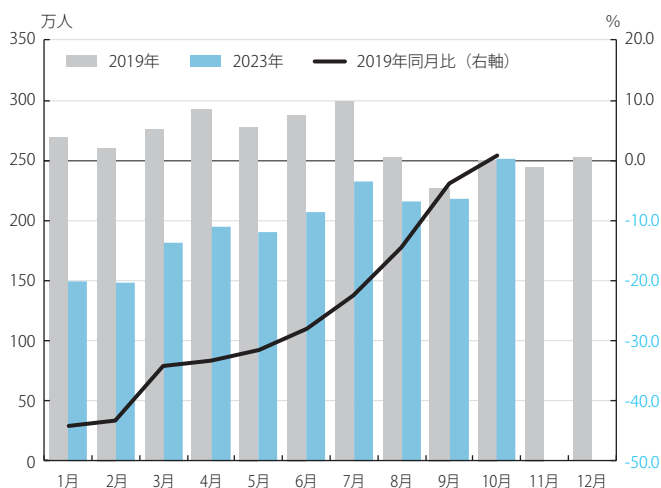
○茨城空港の中国便が再び就航停止

コロナ禍で運休が続いていた茨城空港と中国・上海を結ぶ定期便は、23年8月4日に約3年半振りに就航が再開しました。しかし、利用実績の低迷を理由に10月29日から再び運休、同19日に再開した中国・福州を結ぶ連続チャーター便もわずか2往復で運休となるなど、中国からの訪日客数の伸び悩みは、茨城県にも影響を与えています。

大型観光促進施策「デスティネーションキャンペーン」の影響もあり国内客中心に回復しつつある茨城県の観光ですが、訪日客の本格的な回復も待たれます。

(筑波総研 研究員 金田 憲一)

図1 訪日客数の月次比較 (2019年・2023年)



出所：日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客統計」

表1 訪日客数上位の国・地域 (2023年10月)

| 国・地域 | 訪日客数 (万人) | | 増減率 (%) |
|--------|-----------|----------|---------|
| | 2019年10月 | 2023年10月 | |
| 総数 | 249.7 | 251.7 | 0.8 |
| 韓国 | 19.7 | 63.1 | 219.9 |
| 台湾 | 41.4 | 42.5 | 2.7 |
| 中国 | 73.1 | 25.6 | ▲64.9 |
| 米国 | 15.3 | 21.2 | 38.2 |
| 香港 | 18.1 | 17.9 | ▲0.7 |
| タイ | 14.5 | 12.5 | ▲14.3 |
| フィリピン | 6.5 | 6.9 | 7.0 |
| 豪州 | 5.2 | 6.2 | 20.2 |
| シンガポール | 4.2 | 5.5 | 31.4 |
| カナダ | 3.8 | 5.2 | 37.3 |

出所：日本政府観光局 (JNTO) 「訪日外客統計」